

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		療育支援工房 荒江教室		公表日 令和8年2月20日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			時間帯によって、学習で机を使っている事が多いため、生徒さんの人数によっては、遊ぶ時の机が足りなくなる日もある。その時の状況で机移動させるなど配置の工夫をしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	5		職員と生徒さんの配置人数は適切だが、学校送迎時は、教室内に待機として残る職員が不足していると感じている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6	小さな段差はジョイントマットを使用したりして段差がなくなるように工夫をしている。	玄関内、外にともに段がある。歩行が難しい生徒さんは、体を支えたり、段のところだけ抱える等して対応している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日部屋や玄関、送迎車の掃除や消毒を行っている。また手に触れる物(手すりや玩具)等も消毒をしっかりと行っている。トイレは支援中も汚れていないか適宜確認をしている。学習室と自由室を分けており、学習や遊びに集中できるようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		気持ちの切り替えや、体調が優れない等必要に応じて、個室を用意している。部屋を分けることが難しい時はパーテーションを使用して工夫している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		平日毎朝1時間程度のミーティングで時間を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的に面談があり、その場所で細かく意見を伝えることが出来ている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		リタリコ研修・社内研修など定期的に行っている。研修レポートの作成を行う為、学んだことが身につくやすい。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		ご契約時に取ったアセスメントを初回利用までに回覧し支援の準備をしている。また、更新時にアセスメントを取り、個別支援計画に活かしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		ミーティングや個別支援計画の原案の作成時に生徒さんの成長点や課題点を職員みんなで話し合いをして、共通理解をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		ミーティングで共有を行い、課題に対してアプローチを行い、振り返りを都度行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		個別支援計画にて、本人支援は5領域も考えて作成し移行支援、家族支援なども踏まえながら目標設定を行っている。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		生徒さんに関わる全ての職員とミーティングで各生徒さんの課題や成長点を話し合っ、個々に合わせたアプローチが出来るようにプログラムの立案をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		行ったプログラムを個別のファイルで管理して、学習の内容と結果が一目で分かるように工夫しながら、同じプログラムが続かないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別で活動できる時間とイベントやみんなの会等で集団で活動する時間を設けており、それぞれに対して個別支援計画にも記載して支援をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日支援前にミーティングを行い、役割分担や支援内容を確認して漏れないようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		毎日ミーティングを行い、その日の振り返りや共有事項を共有・報告している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		ご利用時は、提供記録を作成して、次の支援に活かせるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年に1度は必ず、アセスメント・モニタリング・個別支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		生徒さん本人がどうしたいのかを選択しながら決めてもらえるように環境設定をしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		生徒さんに日々関わっている職員や、児童発達支援管理責任者が会議に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		担当者会議を行い、必要な情報提供を行って支援に活かしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		ミーティング等で口頭確認と共に、スラックを使用して必要な情報を確認で共有できるようになっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		高校卒業の該当者が今現在はいないが、引越など別のデイサービスを利用される方に対して、必要な情報提供が出来る物を保護者様にお渡し等している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	6		各ご家庭事情の背景もあるため、職員が率先して他の交流を促すことは現状難しい事もある。お互い理解しあえる関係性を築ける仕組みを考えていく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		毎日の送迎時にその日あった事をお伝えしたり、提供記録を2回に1回公開しながら、様子をお伝えしている。またお困りごとを双方で伝えて、ご家庭と連携を取りながら支援に活かしている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		面談時に保護者様が困っている事などを伺い、必要な情報提供などを行っている。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		ご契約時に、詳細の説明を行ってサインを頂いている。後からご不明点が出てきた時は、その都度ご確認いただけるようお伝えしている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		本人（生徒さん）のご希望と、ご家族のご要望を確認し、その意にあった内容で作成をしている。また、生徒さんのお困りごとを軽減できるような視点で計画を作成し、確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		半年に一度の面談で説明を行っている。質問や変更点などがないか十分確認を行い、同意を頂いている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	5		父母の会はそれぞれのご家庭の事情があるため、保護者会を開催するのは難しいが、ご利用のある生徒さんは、きょうだい児同士で関わる等接点を持てるようにしている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			ブログの作成をして定期的に更新している。エフだよりで行事のお知らせも行っている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			写真を撮った時など、他の生徒さんが映り込んでいないのか等十分に確認をしている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			口頭だけでなく、文字やプリントなど、必要に応じて伝わりやすい方法で情報をお伝えしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		土曜日のイベント時に、外部の方を講師としてお招きするなどして地域や外部との接点を持てるように工夫をしている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			研修や、避難訓練、実践訓練等、実際に何かが起きた時を想定して訓練を実施している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			業務継続計画（BCP）を年に2回行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			服薬が必要な生徒さんには服薬依頼書を記載してもらっている。てんかん時は、保護者様や病院との連携を取って、すぐに対応、対処できるようにしている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			おやつ、クッキング共に、アレルギーのある生徒さんは別の物にて代替えの提供を行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			ヒヤリハットが起きた際はすぐに報告口頭での報告と、ヒヤリハット報告書の作成を行い、同じことが起きないように全員努めている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			入社時とプラス年1回の研修を行い、虐待防止の意識を高めて業務に努めている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				